

豊川市伝統芸能支援事業

赤坂の舞台歌舞伎公演

◇金沢歌舞伎(豊川市指定無形民俗文化財)

豊川市金沢地区に伝わる農村歌舞伎は、江戸時代後期から明治時代にかけて始まり、神社の祭礼の余興として演じられてきました。最盛期、一部の有志は県外で活動したこともありました。

昭和55年より活動が再開され、毎年公演を続けています。



◇一宮南部小学校歌舞伎クラブ

校区に伝わる「金沢歌舞伎」を、学校のクラブ活動に取り入れることによって、地域の活動に携わっていくことを目的として活動しています。クラブの子どもたちだけでも公演するほか、部員や卒業生が、金沢歌舞伎一座に加わって出演するなど、伝統芸能の後継者育成にも資しています。



◇赤坂の舞台(豊川市指定有形民俗文化財)と小屋掛けの会

三河地域の東部や北部は、農村舞台が数多く分布することで知られています。この地域では江戸時代から農村歌舞伎と呼ばれる地芝居が盛んで、神社の境内に専用の舞台が設けられることがままありました。

豊川市内でも近年このような舞台の取り壊しが進みましたが、それでもいくつかの舞台が残されています。なかでも、杉森八幡社の「赤坂の舞台」は今でも活用されている貴重な例といえるでしょう。

この地域の農村舞台は、舞台部分だけを建てて、客席は屋外とする形式のものです。このため、杉森八幡社の「赤坂の舞台」は、例祭に合わせて小屋掛けと呼ばれるドーム状の屋根を形づくった客席が特設されるようになりました。ここ的小屋掛けは竹を両側からアーチ状に掛け渡し、登梁で吊り上げるという独特のもので、平成18年に地元有志によって結成された小屋掛けの会によって45年ぶりに復活しました。

豊川市内の農村舞台分布図

